

県境地域のエコ通勤について

豊橋市 都市計画部 都市交通課

県境地域のエコ通勤について

県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

目的

通勤時間帯に渋滞が激しい県境地域において、事業所（自家用車で通勤する人）を対象に、通勤手段を自家用車から公共交通機関等へ自発的な転換を促す取組により、下記の目的の達成を目指す。

- ・ 通勤時間帯における渋滞対策
- ・ 渋滞地域周辺の交通環境の改善
- ・ 環境や交通に対する意識の変革
- ・ 公共交通の維持、充実
- ・ CO₂排出量や資源消費の削減



県境地域（国道1号：豊橋市大岩町）

県境地域のエコ通勤について

県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

場 所

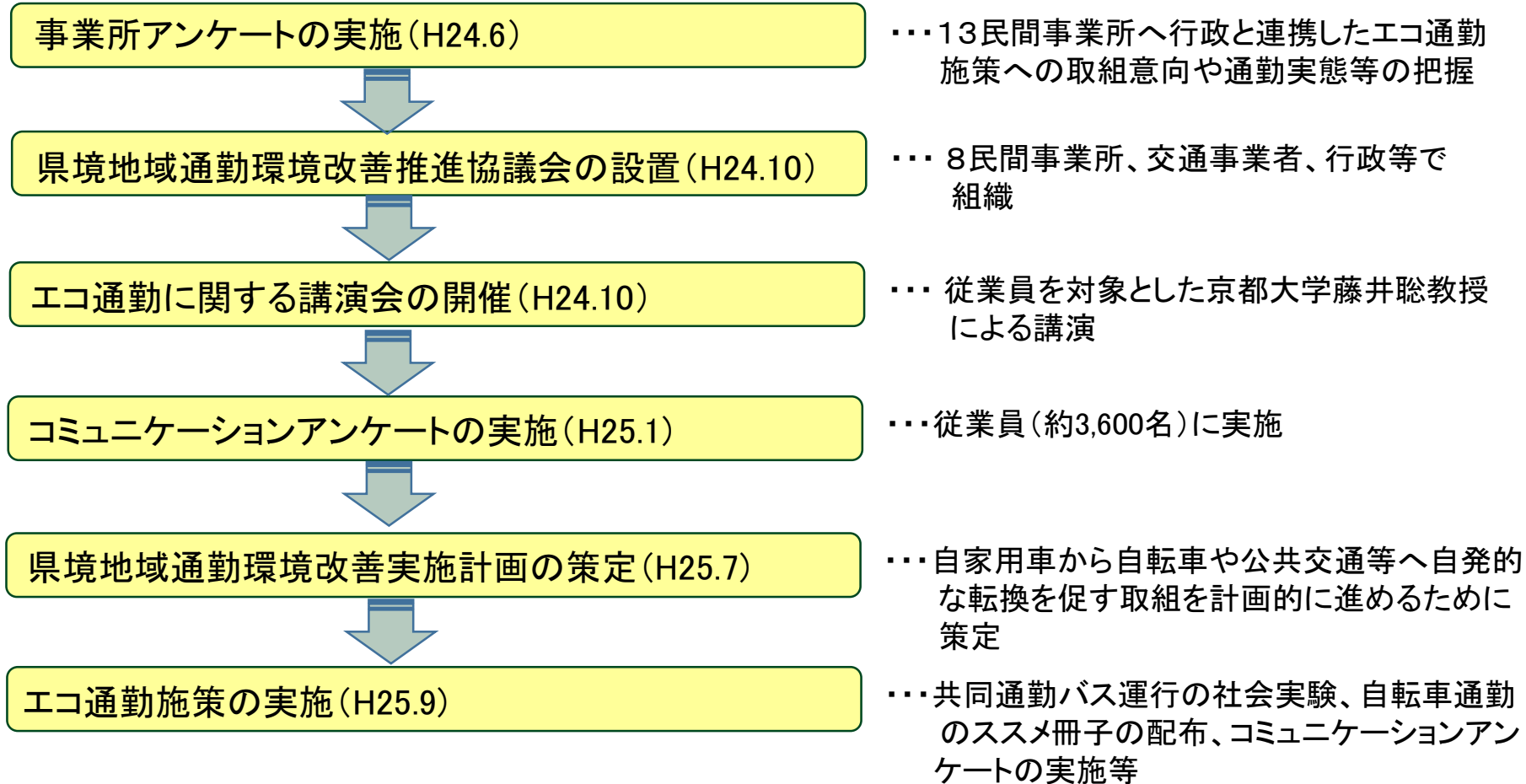
静岡県に隣接した、豊橋市の
の東部地域。
都市計画の用途地域で
は、工業専用地域があり、
大きな工場があるところ。



県境地域のエコ通勤について

県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

取組経緯



【県境地域の8民間事業所】

アスモ(株)豊橋工場、日東電工(株)豊橋事業所、日本フード(株)、有楽製菓(株)豊橋夢工場、レンゴー(株)豊橋工場、シンフォニアテクノロジー(株)豊橋製作所、大三紙業(株)深田池工場、福井ファイバーテック(株)

県境地域のエコ通勤について

県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

事業所アンケートの実施（H24.6）

【主な結果】 ※13事業所へアンケートを配付し、11事業所から回答

- ・始業時間は「8時台」、終業時間は「17時前後」に集中
- ・従業員の約8割以上がクルマ通勤
- ・2事業所で従業員用通勤バスを使用している（6系統運行している事業所もあり）
- ・約5割の事業所が過度のクルマ利用は渋滞の原因となっていると認識
- ・約8割の事業所が過度のクルマ利用は交通事故リスクの増大につながると認識
- ・約9割の事業所が過度のクルマ利用は地球環境問題の原因になっていると認識
- ・約8割の事業所は「エコ通勤」に関心あり
- ・約6割の事業所は従業員アンケートに「協力可」または「検討可」

県境地域のエコ通勤について

県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

県境地域通勤環境改善推進協議会の設置（H24.10）

行政と民間が
いっしょにできることを
一つずつ実践していく運動

【県境地域の8民間事業所等】

- ・アスモ(株)豊橋工場
- ・日東電工(株)豊橋事業所
- ・日本フード(株)
- ・有楽製菓(株)豊橋夢工場
- ・レンゴー(株)豊橋工場
- ・シンフォニアテクノロジー(株)豊橋製作所
- ・大三紙業(株)深田池工場
- ・福井ファイバーテック(株)
- ・豊橋商工会議所

【行政】

中部地方整備局 名古屋国道事務所・名四国道事務所
愛知県 交通対策課・東三河建設事務所
静岡県湖西市
豊橋市

【交通事業者】

豊鉄バス(株)

【アドバイザー】

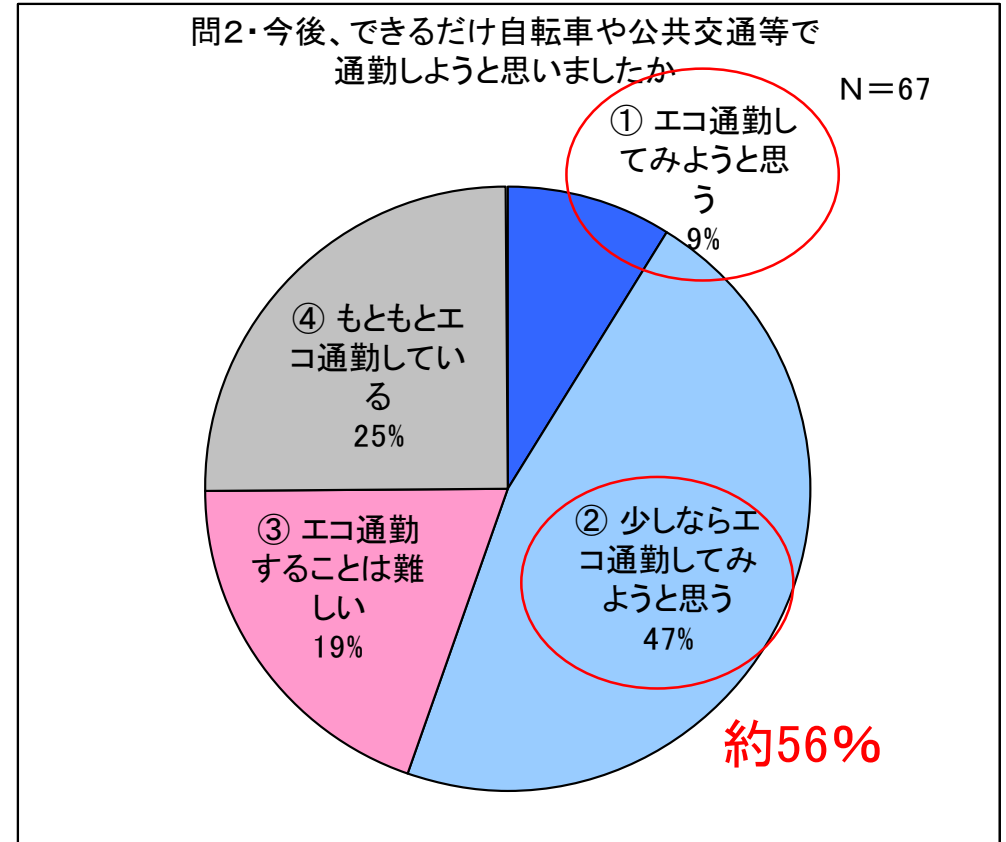
京都大学大学院
藤井聡教授



県境地域のエコ通勤について

県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

エコ通勤に関する講演会（京都大学大学院藤井教授）の開催（H24.10）



県境地域のエコ通勤について

県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

県境地域通勤環境改善実施計画の策定（H25.7）

【目標】

自家用車での通勤者（約2,500名）のうち、15%（375名）を他の通勤手段へ転換する

平成29年度（平成28年度の新所原駅南口供用開始の翌年）までに実施することが考えられる施策を以下のとおり整理

●考えられる施策

ハード施策

- (1) バスの利便性の向上
 - ⇒①共同通勤バスの運行
 - ⇒②路線バスの延伸・新設
 - ⇒③路線バス運行本数の増便・運行時間拡大
- (2) 自転車通行空間の整備
- (3) 通勤時のレンタサイクル（ライドアンドサイクル）
- (4) 駐輪場の整備及び活用
 - ⇒①公共駐輪場の活用
 - ⇒②事業所駐輪場の増設
- (5) 道路照明灯、防犯灯の設置

ソフト施策

- (6) 自転車の走りやすさマップ作成・配布
- (7) 従業員への通勤手段転換の動機づけ
 - ⇒①コミュニケーションアンケート
 - ⇒②ニュースレターの作成・配布
- (8) 通勤手当の変更
- (9) 時差通勤の導入
- (10) エコ通勤優良事業所認証制度への登録

県境地域のエコ通勤について

県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

エコ通勤施策の実施（H25.9）

■エコ通勤推進週間の設定（H25. 9. 24（火）～10. 4（金）の平日9日間）

参加事業所：県境地域に立地する7事業所

アスモ(株)豊橋工場、日東電工(株)豊橋事業所、日本フード(株)、有楽製菓(株)豊橋夢工場、
レンゴー(株)豊橋工場、大三紙業(株)深田池工場、福井ファイバーテック(株)

■共同通勤バス運行の社会実験

複数の事業所が共同で通勤バスを運行することを目指し、既に運行していた日東電工(株)豊橋事業所の5路線とアスモ(株)豊橋工場の1路線に加えて、市が新規に3路線を追加し、参加事業所の従業員が利用できる共同通勤バスの社会実験としてエコ通勤推進週間に実施

【共同通勤バスの内容】

- ・日東電工豊橋事業所が運行している既存の5路線（出勤時39便、退勤46便）に対し、うち3路線で市が増便（出勤4便、退勤4便）
- ・アスモ(株)豊橋工場が運行する既存の1路線（出勤13便＋退勤6便）
- ・豊橋市が新規に運行する3路線（出勤6便＋退勤12便）

■コミュニケーションアンケートの実施及び情報提供

エコ通勤推進週間（共同通勤バス運行の社会実験）実施前に参加事業所の従業員へエコ通勤啓発用ツール（通勤手帳、自転車通勤のススメ等）を配付

コミュニケーションアンケートはエコ通勤推進週間（共同通勤バス運行の社会実験）終了後に参加事業所の従業員（約3,100名）を対象に実施

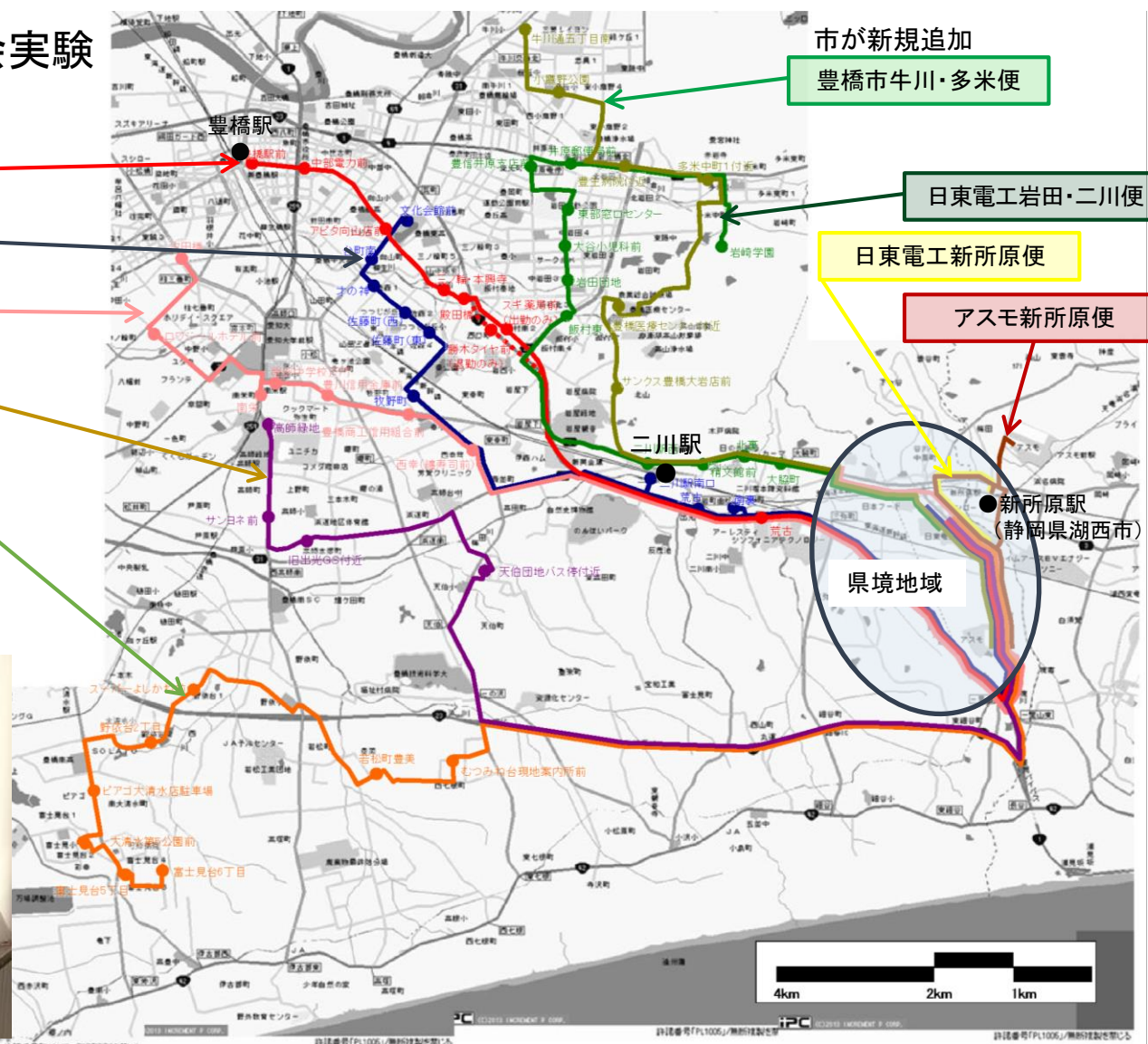
県境地域のエコ通勤について

県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

■ 共同通勤バス運行の社会実験

- 市が増便 日東電工豊橋駅前便
- 市が増便 日東電工台町・二川便
- 市が増便 日東電工民南栄便
- 市が新規追加 豊橋市高師・天伯便
- 市が新規追加 豊橋市富士見台・若松便

- 市が新規追加 豊橋市牛川・多米便
- 日東電工岩田・二川便
- 日東電工新所原便
- アスモ新所原便

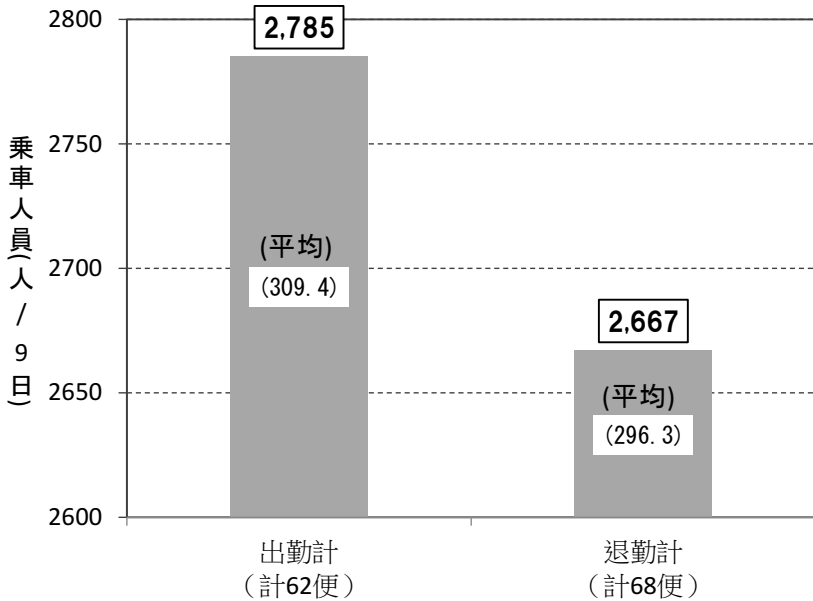


県境地域のエコ通勤について

県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

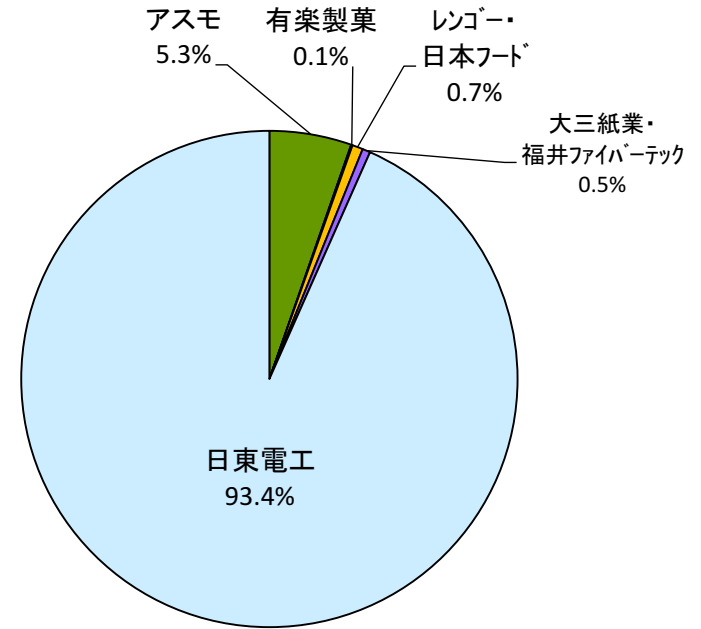
■ 共同通勤バスの利用状況①

○ 共同通勤バスの総利用者



注) 社会実験期間中に運行されたすべての便(日東電工既存便[渥美便を含む]、アスモ新所原便、豊橋市増便分)の合計

○ 共同通勤バスの企業別バス停利用者の割合



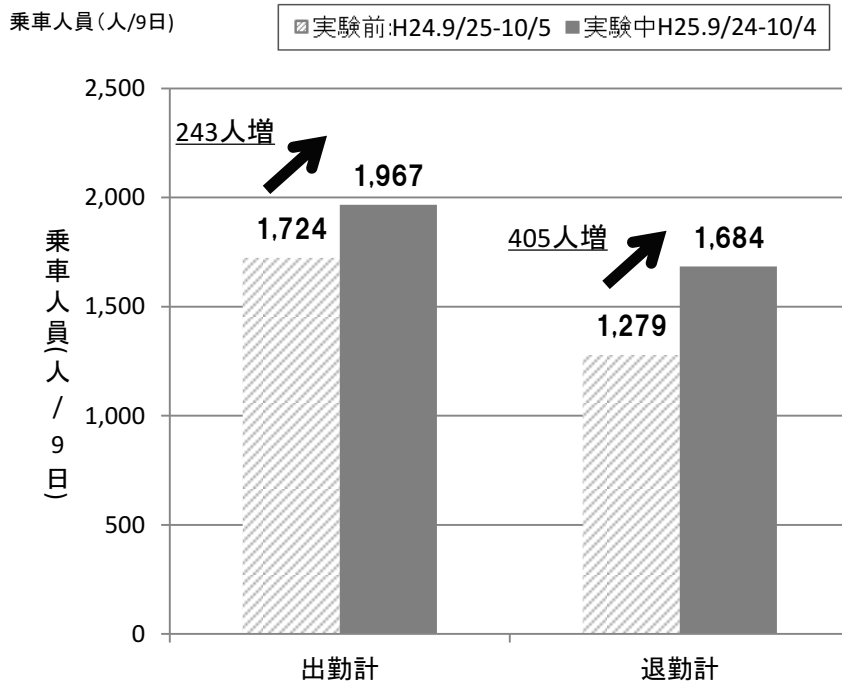
社会実験期間中の利用者数の合計は、出勤＝約2,800人、退勤＝約2,700人。
1日の平均利用者数は、出勤＝約310人、退勤＝約300人。

県境地域のエコ通勤について

県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

■ 共同通勤バスの利用状況②

○ 日東電工（既存運行便）路線全体の利用状況



注) 利用者数については、実験前・中のデータが取得できている路線・便を対象として比較した。
 日東電工台町・二川便の実験前「出2便」「出3便」「退1便」、
 日東電工新所原便の実験前「退17便」は、未観測のため比較対象外とした。

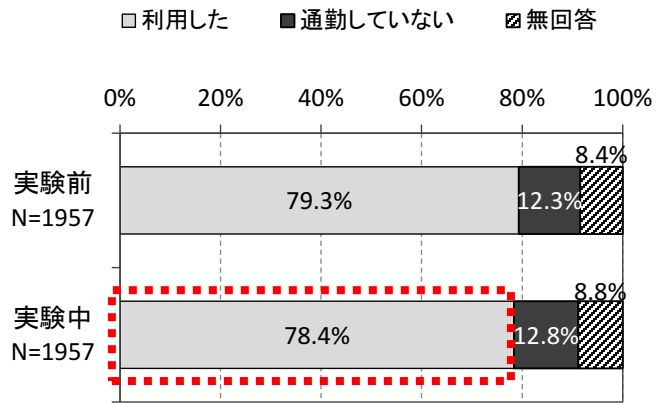


県境地域のエコ通勤について

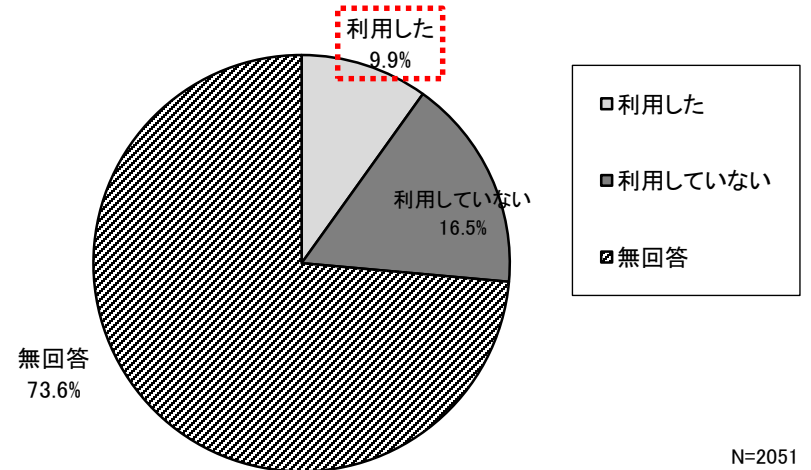
県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

■コミュニケーションアンケート結果①

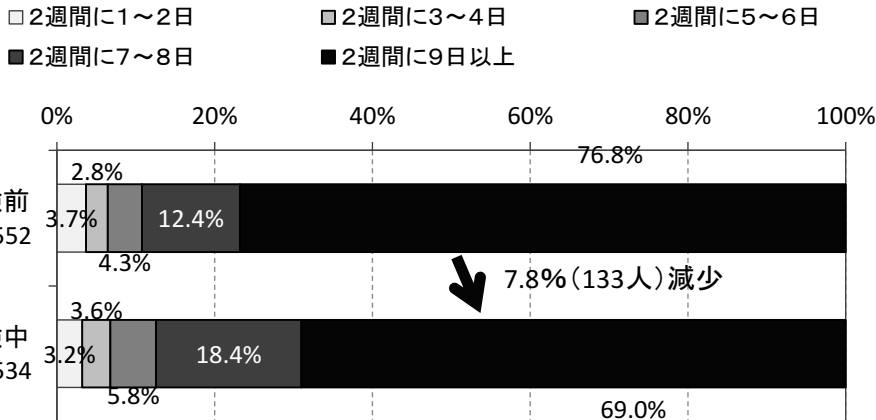
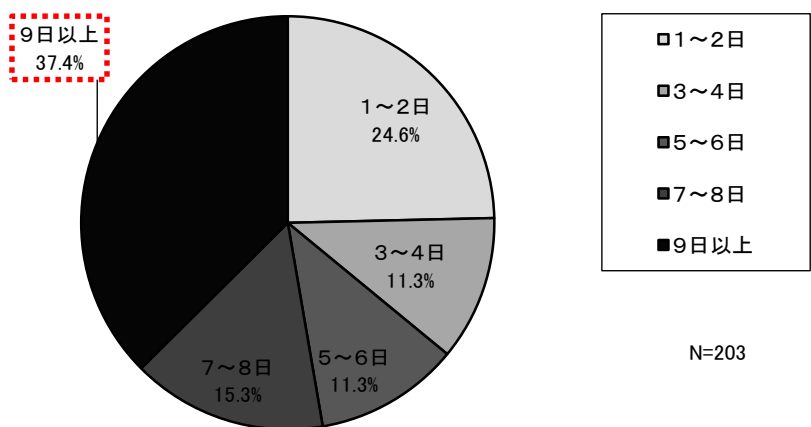
○期間中における自家用車での通勤状況



○共同通勤バスの利用状況



○共同通勤バスの利用頻度

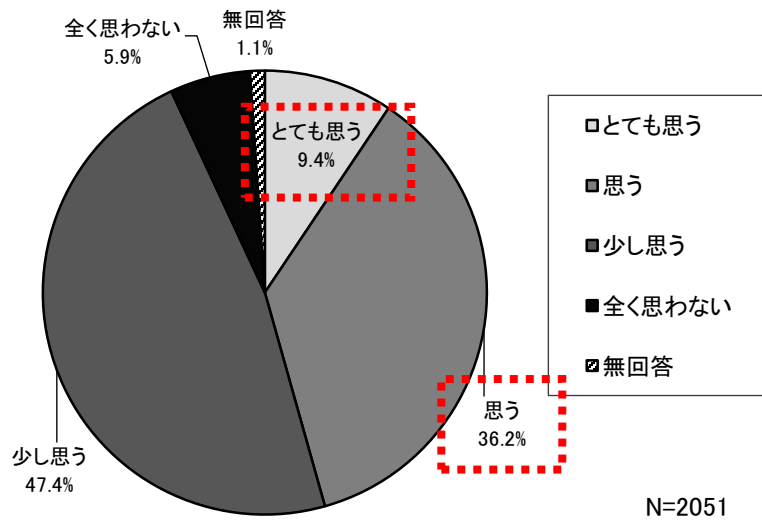


県境地域のエコ通勤について

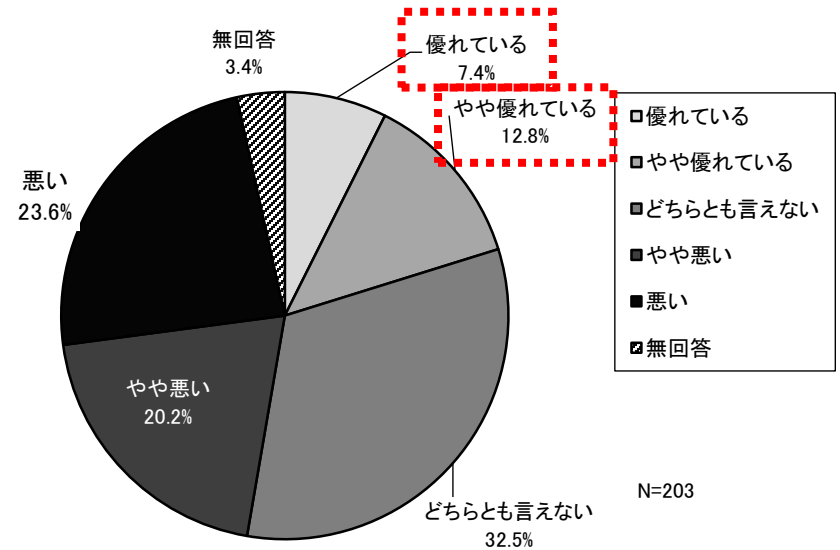
県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

■コミュニケーションアンケート結果②

○エコ通勤の必要性



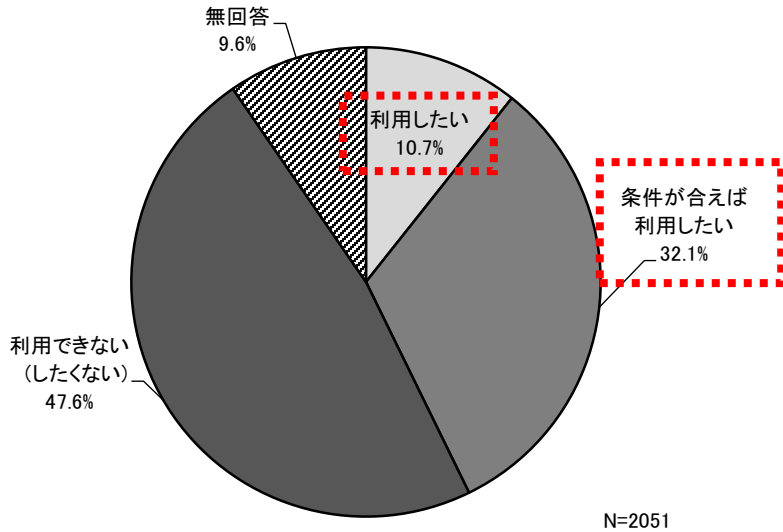
○共同通勤バスの利便性



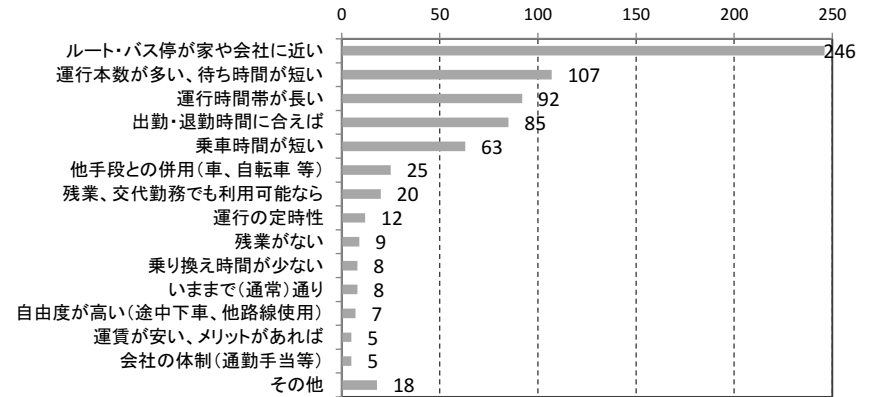
県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

■コミュニケーションアンケート結果③

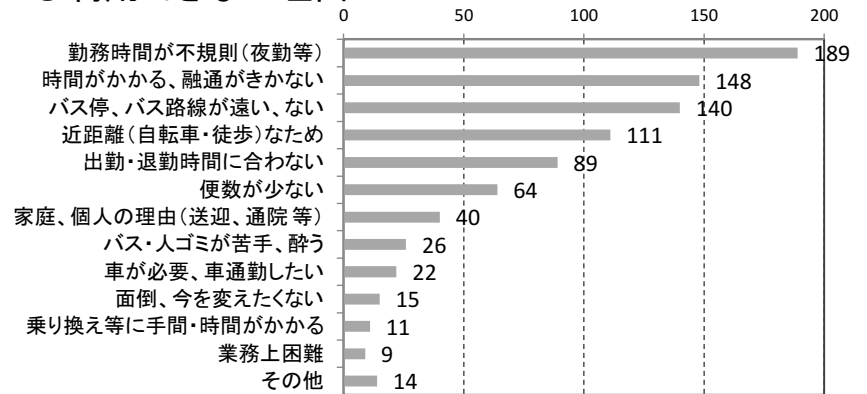
○共同通勤バスを日常的に運行した場合の利用意向



●利用できる条件



●利用できない理由

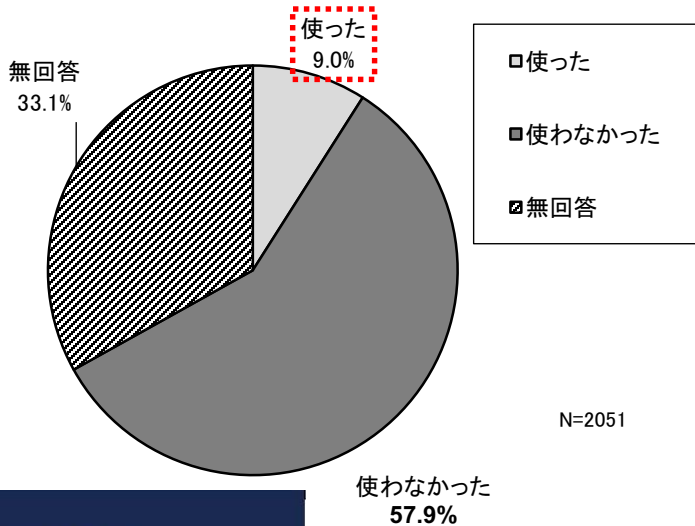


県境地域のエコ通勤について

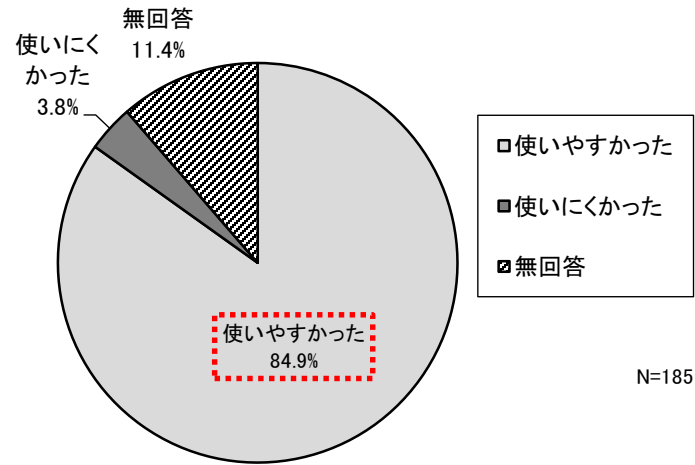
県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

■コミュニケーションアンケート結果④

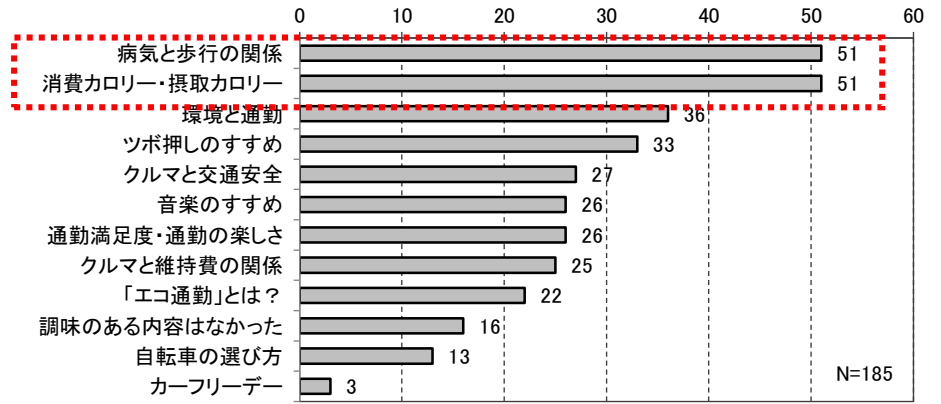
○通勤手帳の使用について



○通勤手帳を使用した感想



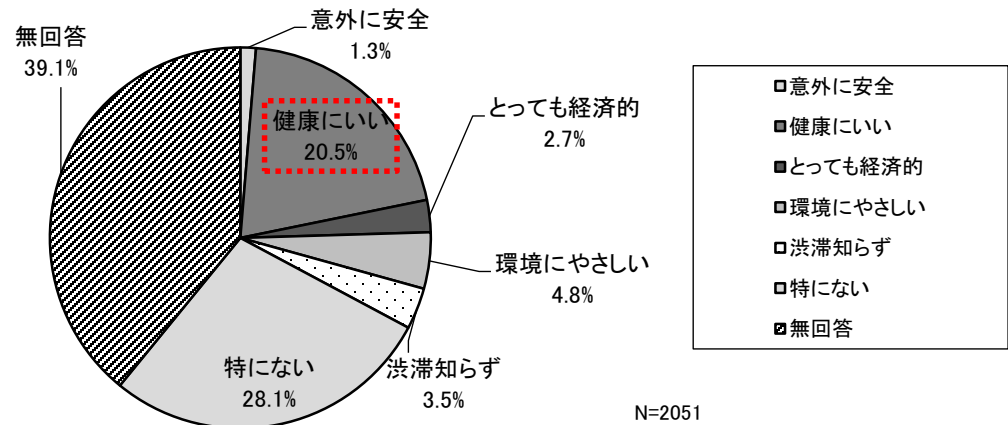
○通勤手帳を使用した方の興味を持った内容



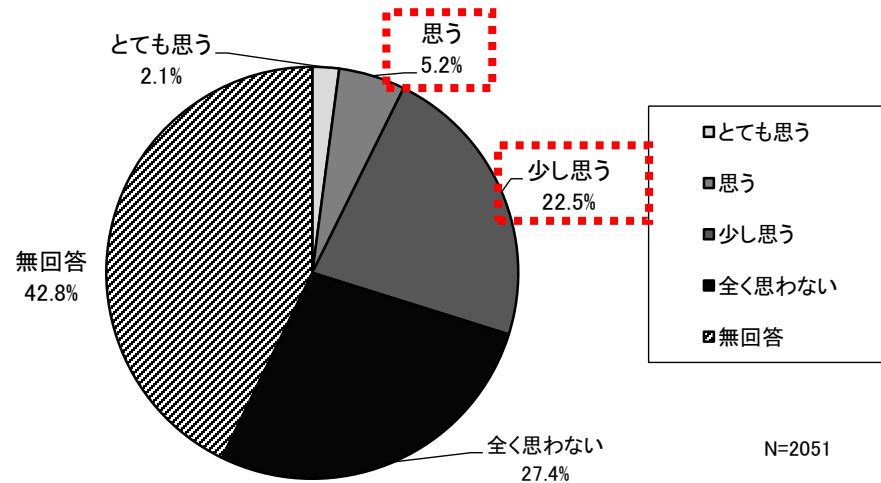
県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

■コミュニケーションアンケート結果⑤

○自転車通勤のススメ冊子 （関心を持った項目）



○自転車通勤の実践意向



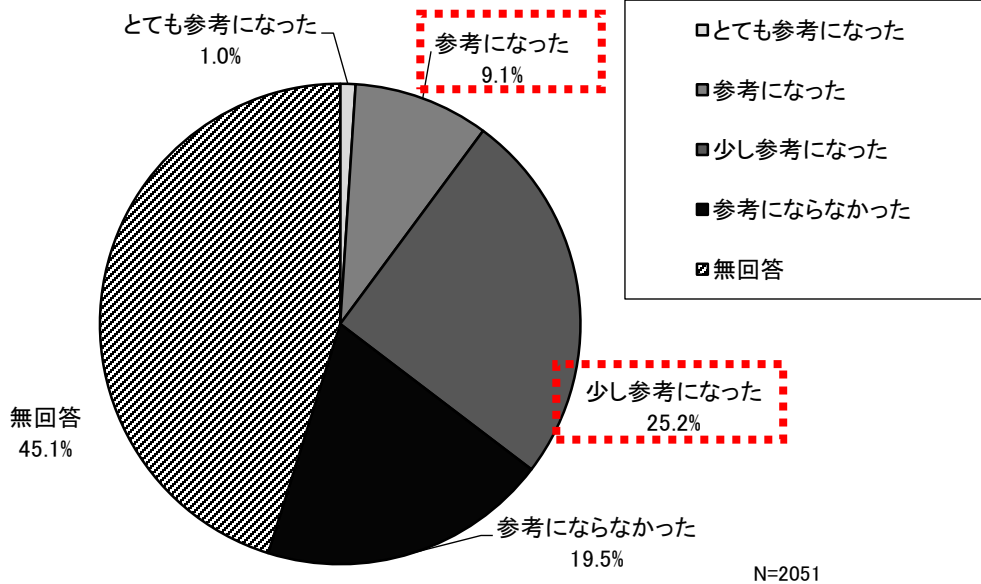
県境地域のエコ通勤について

県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

自転車通勤のススメ冊子

■コミュニケーションアンケート結果⑤

○自転車通勤マップの参考度



自転車通勤のススメ

自転車通勤にはこんなメリットがあります

- 健康に良い
- 環境にやさしい
- 経済的
- 安全
- 手軽で経済的

自転車通勤のデメリット

- 天候の影響を受けやすい
- 通勤距離が長い場合は大変
- 盗難のリスクがある

自転車通勤の準備

自転車通勤の準備は、安全に楽しむための大切なポイントです。

- ヘルメットの着用
- 安全確認
- 信号機の手順
- 歩道の走行
- 歩道の歩行者優先
- 歩道の歩行者優先
- 歩道の歩行者優先

自転車通勤マップ

2013年に、県境地域の通勤者に自転車通勤を促すためにアンケートを行い、通勤ルートに活用されているルートや位置が通勤ルートマップに収録されています。

通勤ルートマップ

通勤ルートマップは、通勤者の通勤ルートや位置が通勤ルートマップに収録されています。

通勤ルートマップ

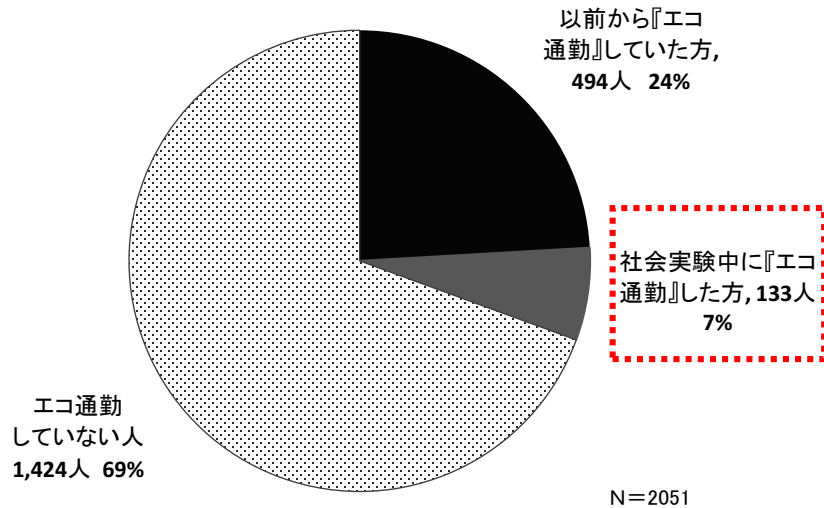
通勤ルートマップは、通勤者の通勤ルートや位置が通勤ルートマップに収録されています。

県境地域のエコ通勤について

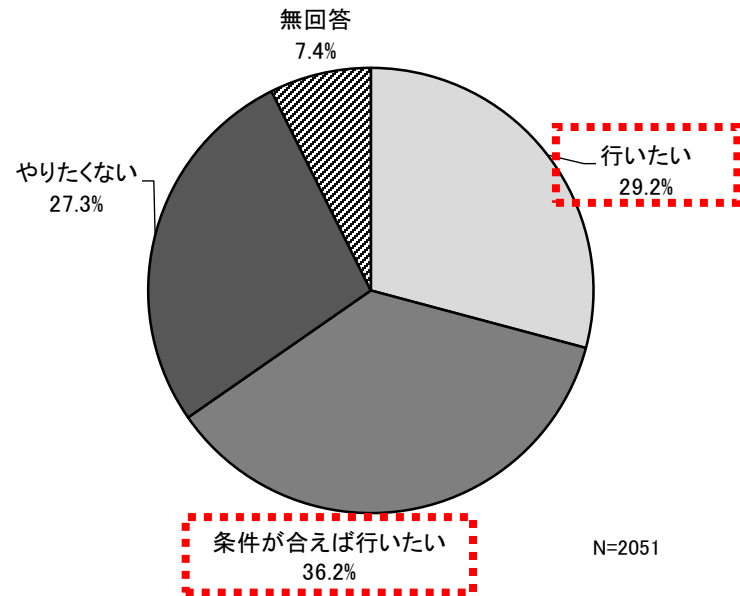
県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

■コミュニケーションアンケート結果 まとめ

○『エコ通勤』の実施有無



○今後の『エコ通勤』の実施意向



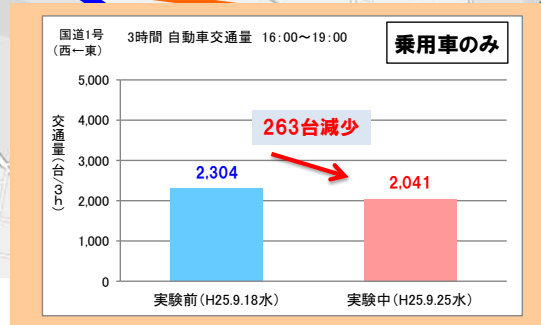
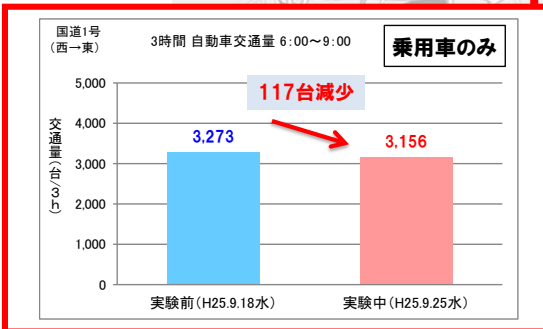
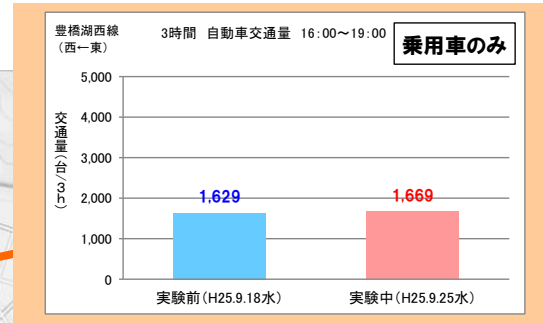
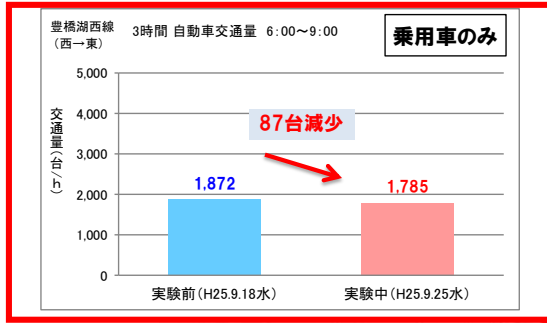
【算出方法】

- 以前から『エコ通勤』していた方：社会実験前の2週間のうち、1日でもクルマ通勤をしなかった方。
- 社会実験中に『エコ通勤』した方：クルマ（運転）通勤者を9日以上していると回答した方の社会実験前・中の削減人数

県境地域のエコ通勤について

県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

交通量調査結果



■調査日の天気■
 H25.9.18(水): 晴れ
 H25.9.25(水): 晴れのち雨
 (16時頃より雨)

県境地域におけるエコ通勤の取組（平成24年度～）

■平成25年度の取組全体の評価及び課題

■評価

- 複数の事業所が参画して、共同通勤バスの社会実験やコミュニケーション施策を実施できた。
- 普段、自家用車で通勤している方が自家用車以外の交通手段に転換した。
- 従業員のエコ通勤に対する実施意向が向上した。
- 今回の取組について、地元校区から一定の評価を得た。

■課題

- 各事業所におけるエコ通勤施策の実施（参画）に対する意向の差
- 各事業所におけるキーパーソンが存在などの実施体制
- 各事業所の繁忙期やフレックスタイムなどを踏まえた実施期間の設定
- 市と事業所、事業所間における情報交換の実施

県境地域のエコ通勤について

県境地域におけるエコ通勤の取組（平成26年度～）

県境地域通勤環境改善実施計画の改定（H28.6）

【目標】

参画事業所 8 社におけるエコ通勤率 25 %の達成（計画期間H28～H31）

エコ通勤を推進できる度合いや必要な施策が異なるため、参画事業所毎の目標値を設定し、それを踏まえ、協議会における目標値を設定した。

■モビリティウィークとの連携（H27・H28）〈参画事業所〉

市でヨーロッパモビリティウィーク&カーフリーデーに参画。モビリティウィーク期間中、エコ通勤を促すニュースレター等を参画事業所の従業員へ配布。

■自転車通行空間の整備（H27・H28）〈愛知県・豊橋市〉

【（市道）大岩町 324 号線、342 号線】（二川駅からの南北の道路）
【（主要地方道：県）豊橋湖西線】（一部）

■新所原駅及び周辺整備（H28）〈湖西市〉

【南北自由通路の整備、供用開始】

行政と民間がいっしょにできることを一つずつ実践していく運動

という基本的な考え方に基づいて、協議会や各参画事業所において今後も実施可能な取組を推進していく。